

2012年7月18日
株式会社日立製作所

韓国で初めての大型石炭焚き卸電力事業となる 超々臨界圧*石炭火力発電所向け蒸気タービン発電機 2基を受注

株式会社日立製作所(執行役社長:中西 宏明/以下、日立)は、このたび、大韓民国(以下、韓国)の卸売電力業者(IPP:Independent Power Produce)である STX 電力株式会社(取締役社長:金 鎮滉(キム・ジンシク)/以下、STX 電力)の、北平(ブッピョン)火力発電所 1号機および 2号機向け 595MW 超々臨界圧石炭火力発電用蒸気タービン発電機 2基を STX 重工株式会社(取締役社長:李 贊雨(リ・チャンウ)/以下、STX 重工)より受注しました。

STX 電力は、韓国東西発電株式会社(社長:李 吉久(イ・キルグ))と STX Energy(社長:李 秉鎬(イ・ビョンホ))が出資する特別目的会社であり、本受注は、韓国で初めての民間企業による大型石炭焚き卸電力事業です。また、STX 重工は、本件での建設プロジェクト纏めを担当します。

韓国では、経済成長に伴い、電力需要が堅調に増加しています。今後も継続的な電力需要の伸びが見込まれていることから、現在約 79GW の総発電設備容量を、2024年までに約 45GW 増加させるための新規発電所建設が計画されています。また、韓国における卸電力事業の現在の割合は約 1割ですが、今後、高効率な石炭火力発電を活用した卸電力事業の需要が高まると見込まれています。

今回受注した蒸気タービン発電機は、韓国首都圏への電力供給を担い、ソウル市東約 260km に位置する韓国 江原道(カンウォンド)東海市(トンヘシ)の北平火力発電所に建設される 1号機および 2号機向けであり、韓国で初めての大型石炭焚きによる卸電力事業の火力発電設備となります。日立の高い技術力と品質、性能への信頼性、そしてこれまでの韓国における実績などが STX 電力より高く評価され、今回受注しました。1号機は 2015年 12月、2号機は 2016年 4月に商業運転を開始する予定です。

日立は、蒸気を高温高压化することで発電効率を高め、二酸化炭素(CO₂)排出量を抑制する超々臨界圧石炭火力発電設備において豊富な実績を有しており、これまでに国内で 9基、海外で 30基を受注しています。韓国においても、2004年の韓国南東発電霊興発電所 3号機および 4号機向け 870MW 蒸気タービン発電機 2基や、2010年 7月の韓国東西発電唐津火力発電所 9号機および 10号機向け 1,000MW ボイラー2基、2010年 12月の韓国南東発電霊興火力発電所 5号機および 6号機向け 870MW 蒸気タービン発電機 2基、2012年 2月の韓国西部発電泰安火力発電所 9号機および 10号機向け 1,050MW ボイラーおよび蒸気タービン発電機 2基の受注実績があります。

日立は、今後も多数の新設が見込まれる韓国市場での石炭火力発電所の受注活動を積極的に推進し、社会イノベーション事業をグローバルに展開、加速していきます。

* 超々臨界圧: 温度 593℃以上・圧力 24.1MPa 以上の蒸気条件

■配置計画図



■照会先

株式会社日立製作所 電力システム社 国際電力営業本部 アジア第二部 [担当:細川]
〒101-8608 東京都千代田区外神田一丁目 18 番 13 号
電話 03-4564-9110 (直通)

以上

このニュースリリース記載の情報(製品価格、製品仕様、サービスの内容、発売日、お問い合わせ先、URL 等)は、発表日現在の情報です。予告なしに変更され、検索日と情報が異なる可能性もありますので、あらかじめご了承ください。
